

チャベス移住地

Federico Chavez



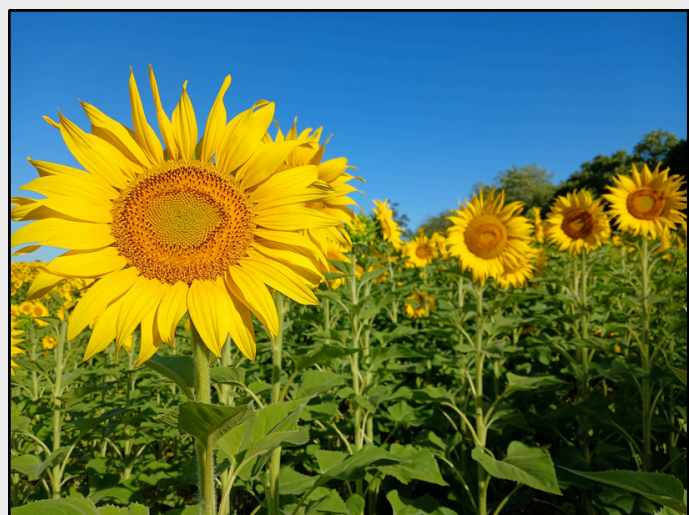
チャベス移住地ってどんな場所？

向日葵、スポーツ、国際色。

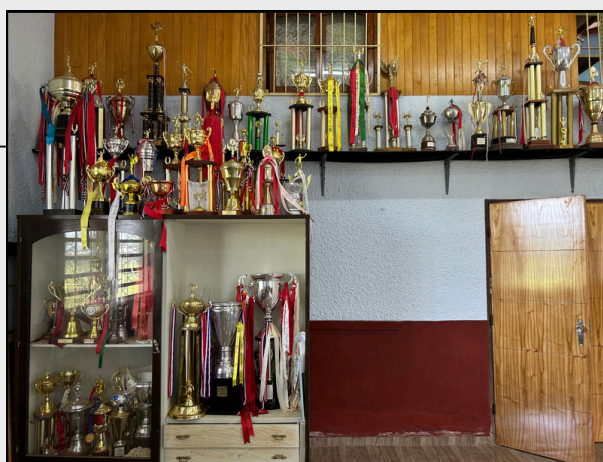
国内第三の都市であるエンカルナシオンから車で30分、11月には向日葵が咲き誇る静かなこの地にチャベス移住地があります。1952年にパラグアイ政府によってこの一帯の利用されていない土地が自作農に開放され、当時のフェデリコ・チャベス大統領の名にちなんだこの移住地が創設されました。60年代には計200家族が入植したものの、70年代には71家族になり、今は40家族ほどが暮らします。ドイツ・ロシア・スペイン・ウクライナ・ベルギー・オランダ・ポーランド等の移住者も暮らす、国際色豊かな地域です。チャベス移住地はスポーツが強い移住地で、2025年11月現在、男子サッカーは全パラグアイの日系社会対抗の大会で2連覇中、女子バレーボールは同じく7連覇中とのことです。



一面に広がる向日葵畑



チャベスでは、11月頃一面の向日葵が咲き誇り、チャベスの象徴となっています。育てている向日葵の種は搾油工場処理され出荷されます。チャベス移住地の農家の生産の主軸は大豆栽培ですが、向日葵や菜種などの栽培もさかんです。

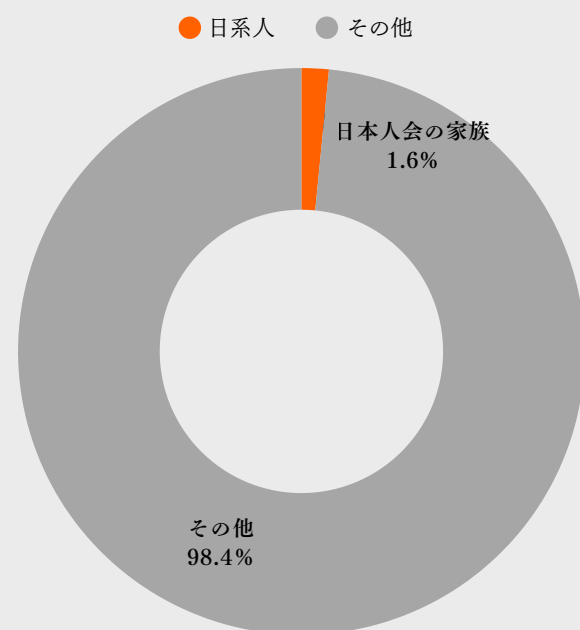


サッカーや
バレーボールの大会の
トロフィー

人口

イタプア県
カピタン・ミランダ市
人口
9,500人

日系人の数
約150人



※2025年11月時点

チャベス日本人会



チャベス日本人会は1955年に設立され、敬老会、成人式、また家族慰安運動会などの日本文化に関連する行事を実施しています。日本人会の隣にはチャベス日本語学校が併設されており、日本人会はその運営をしてきましたが、現在は一時休校中となっています。日本語学校には最も多い時で43名の生徒が通っていました。日本人会の建物の裏にはとても広いグラウンドがあり、チャベス移住地のスポーツ活動を支えています。

婦人部

相生クラブ

青年部



成人式なども
行われるホール



料理交流会の
時の様子

これら3つの系統団体は、日本人会の活動の柱です。婦人部はイベントの運営を行っています。例えば、毎年3月にカピタン・ミランダ市で開催される、日本以外からの移住者と交流する料理祭り（Festival Gastronómico al Disco Arado）では焼きそばや寿司、春巻きを作って振舞っています。相生クラブ（老人会）では、会員の誕生会を実施するなど交流の場となっています。青年部は、主にスポーツ活動をしており、フットサルやバレーボールを楽しみます。婦人部と青年部の活動は、スペイン語に切り替わってきているということです。

社団法人 チャベス日本人会

[所在地] Calle D-5 Capitán Miranda, Itapúa, Paraguay

[電話番号] (+595 981) 933 510 [メールアドレス] aso.jap.chavez@gmail.com

📢 チャベス移住地での暮らし

チャベス移住地に暮らす日系の方々は、専ら農業に従事しており、大豆や小麦の栽培を行っています。チャベスにはもともと農協があったのですが、組合員の減少により、1970年10月に近隣の移住地であるラパス移住地の農協などと合流し「フラム農業協同組合」（のちの「ラパス農業組合」）が設立されました。同組合にチャベス移住地の約8割の農家が所属しており、この同組合が運営する商店（Centro Comercial）は買い物場所でもあります。多くの方々は、趣味としてパークゴルフ、ゲートボールを楽しまれているそうです。また、近隣の移住地であるエンカルナシオンも身近な存在であり、外食の際に出向いたり、若者の多くはエンカルナシオンの高校や大学に進学します。



チャベスの日系社会についてさらに詳しく知りたい方は要チェック！！

<https://urli.info/1jdzA>